

2004年度の紙パック回収率

紙パック回収率は着実に向上し、
2005年度の目標であった35%を超えました。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」を、2005年5月～11月に実施し、2004年度のリサイクルの状況としてまとめました。

今回の調査では、紙パック全体の回収率(産業損紙、古紙を含む)が35.5%(前年度比+1.2ポイント)と調査以来、初めて35%を超えたのが大きな特徴です。

2004年度の紙パックの回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙含む)

35.5%
(2003年度 34.3%)

=製紙メーカー国内受入量÷紙パック原紙国内使用量
=87,496トン÷246,349トン

使用済紙パック回収率
(使用された紙パック)

24.9%
(2003年度 24.1%)

=使用済紙パック回収量÷紙パック出荷量
=53,200トン÷213,243トン

紙パック古紙のほとんどが、
有価物として引き取られています。

紙パックはメーカー等の努力に支えられ、良質の古紙として、他の古紙より高値で取引されています。調査でも、市町村回収、集団回収ともに99%以上が有価もしくは無償で取引されています。また市町村回収の平均取引価格は5.8円/kgで、昨年度とほとんど変わりませんが、集団回収では3.9円/kgと、昨年より少し高くなっています。

紙パック古紙の取引価格(円/kg)

		引渡し	持ち込み
市町村回収	古紙回収業者	5.4	5.4
	古紙直納問屋	8.3	5.8
	製紙メーカー	6.6	7.7
集団回収		3.9	4.6

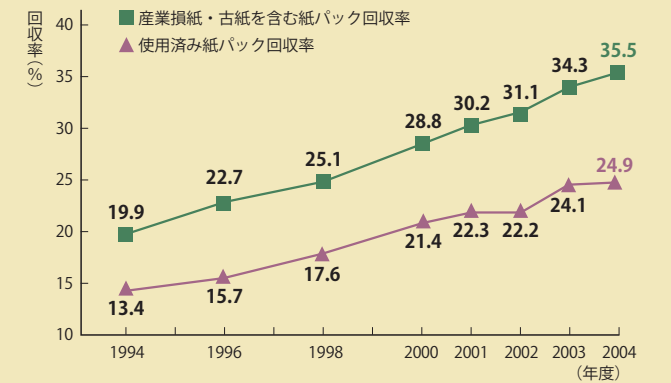
また使用済紙パック回収率(家庭系+学乳などの事業系)が24.9%(前年度比+0.8ポイント)と、リサイクル活動が着実に拡大している結果となりました。

※2004年度の調査では、紙容器メーカー9社・飲料メーカー344社・小学校2,301校・1,255市町村・スーパーマーケット207社・製紙メーカー46社を調査対象としました。
※紙パックの製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材、在庫処分品などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

使用済み紙パックの回収量が
着実に増加しています。

右の図のように調査開始以来、紙パックの回収率は着実に伸長しています。これを回収量で表したのが下の表です。2004年度の回収量は全体で87.5千トンと、前年に比べて4.4千トン(+5.3%)の増加。その内使用済み紙パックの増加は、3.9千トンでした。また学乳紙パックの回収量は、前年に比べて26.7%と大幅に拡大しました。

紙パックの回収率の推移



主要データの推移(千トン)

区分	1994年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	前年度比
飲料用紙パック原紙使用量 (A)	216.0	228.0	229.1	232.9	242.3	246.3	+1.7%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	21.0	22.4	26.4	30.7	32.2	+5.1%
飲料メーカー産業損紙発生量	—	—	2.7	4.1	4.4	3.0	-31.2%
飲料メーカーからの飲料用紙パック出荷量 (B)	197.9	204.1	203.2	198.2	204.6	213.2	+4.2%
家庭系 (C)	168.7	182.2	182.7	171.8	181.1	188.4	+4.0%
自販機等(事業系)	18.5	10.7	11.0	16.5	13.6	15.2	+11.9%
学乳(事業系)	10.7	11.2	9.5	9.9	9.9	9.6	-2.8%
使用済み紙パック回収量 (D)	26.5	43.6	45.3	44.0	49.3	53.2	+7.9%
店頭回収量	13.8	18.8	18.5	18.8	23.7	25.0	+5.1%
市町村回収量	4.3	12.0	12.0	12.0	11.9	12.3	+3.7%
集団回収量	7.8	9.4	10.0	9.1	8.7	9.0	+3.6%
学乳紙パック回収量 (E)	0.6	3.4	4.8	4.1	5.0	6.3	+26.7%
事務系紙パック回収量 (F)	—	—	—	—	—	0.6	—
産業損紙・古紙紙パック回収量 (G)	16.5	22.0	23.8	28.5	33.7	34.3	+1.6%
紙パックメーカー回収量	16.5	20.7	22.2	26.4	30.3	32.2	+6.4%
飲料メーカー回収量	—	1.3	1.6	2.1	3.5	2.1	-40.0%
製紙メーカー国内紙パック受入量 (H)	43.0	65.6	69.1	72.5	83.1	87.5	+5.3%
紙パック古紙輸入量 (I)	—	13.6	9.6	7.2	15.7	2.7	-82.9%
製紙メーカー紙パック受入量 (J)	43.0	79.2	78.7	79.7	98.7	90.2	-8.7%
紙パック再資源化量 (K)	30.1	55.4	60.6	61.7	73.0	67.5	-7.6%
産業損紙を含む紙パック回収率 (H)/(A)	19.9%	28.8%	30.2%	31.1%	34.3%	35.5%	+1.2P
使用済み紙パック回収率 (D)/(B)	13.4%	21.4%	22.3%	22.2%	24.1%	24.9%	+0.8P
家庭系使用済み紙パック回収率 ((D)-(E)-(F))/(C)	15.4%	22.1%	22.2%	23.2%	24.5%	24.6%	+0.1P

※(H)=(D)+(G)、(J)=(H)+(I)、(K)=(J)×(歩留率) 2000年度まで歩留率は70%、2001年度以降はアンケート調査により求めています。※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。※数値を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

2004年度 紙パックマテリアルフロー

2004年度の飲料用紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位:千トン
 ※()内は2003年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

